

# 平成29年度 学校評価書

静岡市立清水桜が丘高等学校

## I 経営の重点に関わること

(自己評価 A:十分効果を上げた B:効果を上げた C:効果が上がっていない)

1 学校教育目標 自己実現に向かって挑戦し、未来を切り拓くたくましい若者を育成する。		自己評価	学校関係者評価委員から	
2 重点目標	(1) 心身の健康、豊かな人間性と規範意識の育成	<p>①気持ちのよい挨拶ができる。 【学校説明】生徒の約73%が「非常によくできる」「よくできる」と答えている。</p> <p>②社会のルールを守り、マナーに気を付けている。 【学校説明】生徒の約87%が「非常によくできる」「よくできる」と答えている。</p> <p>③問題行動等発生件数、交通事故件数が前年度に比べ減少する。 【学校説明】事故件数は昨年度の16件から10件へと減少したが、ゼロを目指して注意喚起を続けたい。</p>	A	<p>・男女を問わず、校内でも校外でも気持ちのよい挨拶ができる。学校の雰囲気は大変よい。</p> <p>・交通事故件数の減少は喜ばしいが、たとえそれが1件でも死亡事故であれば取り返しがつかない。加害者にならないことも含め、さらに指導してほしい。</p>
	(2) 知識・技能にとどまらない幅広い学力の育成と進路希望の実現	<p>①ICTを活用した分かりやすい授業が行われている。 【学校説明】授業アンケートでは約9割の生徒が「行われている」「大体行われている」と答えている。</p> <p>②自分の考えを説明したり表現したりする力が身に付いている。 【学校説明】2学期の授業アンケートでは9割弱の生徒が「授業中に発表・表現の機会がある」と答えているが、学年末の生徒アンケートで「説明の力がついている」と答えたのは34%だった。</p> <p>③進学希望者の2学年末の希望進路達成率50%以上を実現する。 【学校説明】商業科は希望の校種にほぼ100%進学した。普通科にはより早期からの明確な指導が必要である。</p> <p>④就職希望者の就職決定率100%を継続する。 【学校説明】就職希望者52名全員が内定した。うち、公務員には4名が合格した。</p>	B	<p>A</p> <p>・ICT機器の活用によるアクティブラーニング型授業から生徒と教員の工夫が読み取れる。</p> <p>・自己表現力や説明する力は今後ますます重要になる。この点は褒めて伸ばすことが大切だ。「話し方教室」等の開催も有効ではないか。</p> <p>・進学希望達成率、就職決定率ともに順調に推移している。</p>
	(3) 基礎的汎用的能力を中心とする能力や態度を育成するキャリア教育の推進	<p>①複数の部活動が東海大会、全国大会に出場している。 【学校説明】サッカー一部の全国選手権出場、水泳部の全国総体2位をはじめ、男子バレー部・女子ハンド部・水泳部(3名)が東海総体に出場した。ワープロ部・簿記部は全国大会で、吹奏楽部は中日本大会で活躍した。</p> <p>②生徒が地域・社会と連携した教育活動や社会貢献活動、地域の活動に参加している。 【学校説明】シチズンシップ学習で静岡市と、子育て支援実習で市立図書館と、産学連携授業(集客イベント企画)で地元企業と連携した教育活動を行った。</p>	A	<p>・勉強と部活動との両立がよくできている。</p> <p>・サッカーの全国選手権出場は卒業生や地域住民にも感動を与えた。</p> <p>・吹奏楽、書道、英語、囲碁将棋、報道などの部活動の地域貢献活動が感謝されている。</p>
	(4) 市民の信頼に応える学校経営の推進	<p>①生徒のみならず、保護者や地域の信頼を得る取り組みを継続する。 【学校説明】学校だよりを月1回岡地区連合自治会に配布し、学校の教育活動を発信した。</p> <p>②保護者等にホームページや学校通信により学校の教育方針、教育内容の現状を伝えるとともに、広く意見を聴取する。 【学校説明】ホームページを適宜更新し、適切に学校の様子を発信した。年度末反省に合わせ、新たに保護者・生徒アンケートを実施した。Classiを活用して学級通信を配信したクラスもあった。</p> <p>③教育支援ツールにより、家庭との連絡業務における教師の負担を軽減する。 【学校説明】Classiの導入が、学級事務の軽減・生徒の実態把握に役立っている。11HR以外がClassiの学習課題を紙媒体で使用しているため、学習ツールとしての利点が生かされていない。</p>	A	<p>・学校ホームページの内容が充実しており非常によい。</p> <p>・重点目標を目指した取り組みが感じられる。全体の傾向だけでなく、個々の生徒の成長にも学校評価を活用できるとよい。</p> <p>・アンケート結果からも成果をあげていると感じる。</p>

II 各指導部・領域に関わること

(自己評価 A:十分効果を上げた B:効果を上げた C:効果が上がっていない)

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員から
1 教育課程学習指導	(1) 確かな学力の定着 【市共通項目1】	①基礎基本の徹底と学習の習慣化を図るとともに、ICTの活用などによるわかりやすい授業を実施する。 【学校説明】11HRを中心にiPadを活用した授業が行われた。教員が教室設置のプロジェクターを活用する場面も増えている。 ②総合的な学習の時間を活用して、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 【学校説明】新たに夢講演会やシチズンシップ学習等を実施した。委員会を立ち上げ、更に改善を図っている。 ③「職場体験学習」「外部講師による講座」をはじめ、実社会との連携による教育活動を推進する。 【学校説明】「職場体験学習」は例年通り実施した。商業科の授業の多くの場面で外部講師に講義いただいた。	A	・ICTの活用により、授業の取り組みに工夫がされている。  ・ICTを活用し、より一層の授業の充実を図ってほしい。
	(2) 道德教育の充実 【市共通項目2】	①各教科、科目において道德教育に関わる単元・項目を考慮して授業展開を図る。 【学校説明】「道德教育の全体計画」に基づき、授業において道德教育を推進した。「全体計画」の更なる周知を図りたい。 ②命の大切さや弱者へのいたわり、他人に対する奉仕のこころを養うため社会貢献活動を奨励し、その為の啓発活動を推進する。 【学校説明】ボランティア委員会や部活動単位でのボランティア活動への参加が積極的に行われた。「生命のメッセージ展」の展示や「命の大切さを学ぶ教室」を行い、生徒に命の大切さ・交通事故の悲惨さを訴えた。 ③社会生活に必要な規範意識、マナー、生活態度等の指導。挨拶、言葉遣い、態度の育成。服装や頭髪等の身だしなみの育成。 【学校説明】体裁は保たれているが、生徒の意識が年々低下しているという意見もある。職員全体で取り組む体制をもう一度考え直したい。	B	A  ・地域貢献活動を通して相手に喜びや感動を与えることによって感性が磨かれている。  ・学校行事を通して生徒間の信頼関係が生まれ、望ましい人間関係が作り上げられている。  ・国際理解がよく図れている。
	(3) 特別活動の充実 【市共通項目3】	①さまざまな学校行事を通して、生徒の自主性や主体性を育み、望ましい人間関係を形成する態度を育成する。 【学校説明】各委員会が新たな活動を考え、本部役員が定期的な話し合いを持つなど、主体的に活動できた。 ②修学旅行や海外語学研修のプログラムを充実させ、国際理解教育の推進を図る。 【学校説明】海外語学研修参加者の大半が外部の検定に合格した。海外からの訪問も積極的に受け入れた。	A	
2 生徒指導	(1) 一人ひとりを大切に指導 【市共通項目4】	①普段から生徒の言動に十分気を配り、また、一対一の面談をする機会を設け、目標に向けた取り組みを支援し、個々に適した対応を心掛けるとともに、こころの交流を図る。 【学校説明】面接週間には担任が生徒一人ひとりと話した。また、相談室が必要に応じて個別面談を実施した。 ②生徒相談・学校カウンセラーを効果的に活用し支援の必要な生徒に対して、適切に対応する。 【学校説明】カウンセラーの相談時間の7割が活用されている。昼休みに教員が常駐する体制を整えた。	B	・面接週間を設け、多様化する個々の問題に対応していることを評価する。  ・校外外で見かける生徒の姿に特に問題はない。桜が丘高生としての自覚はできていると思う。
	(2) 望ましい生活態度・生活習慣	①挨拶の励行、端正な身装の保持、真摯な清掃態度の徹底を図り、基本的な生活習慣こそすべての基本と位置づけ、身に付けさせる。 【学校説明】なぜそれが必要なのかを説明・指導する必要が増えてきている。 ②登校指導や学年集会時の講話等を通じて、ルールの大切さと守ることの重要性を認識させ、安易な遅刻や欠席をゼロにする。【学校説明】定期的に集会を実施し、生徒課長や学年主任、各学年の指導担当が適切に講話を行った。安易な遅刻や欠席は非常に少ない。	A	A  ・現時点で問題は感じられないが、生徒が多様化しているとの認識の下一層の取り組みをしてほしい。  ・生徒の質が多様化する中、よく対応している。
3 進路指導	一人ひとりの進路の実現	①生徒の進路希望実現のため、効果的な対策を研究・立案し、実行する。 【学校説明】全学年で進路講演会を実施し、1・3年生では保護者対象説明会を実施した。 ②模擬試験・講習を立案して生徒の学力向上を支援し、進路意識の向上を目指す。総合的な学習の時間やキャリアデザインの授業と連携し、「大学見学」や「職場体験学習」等の進路行事を充実させ、進路希望達成(進学・就職)100%を目指す。 【学校説明】模試・講習は計画通り実施した。大学見学は15大学、職場体験は約40社から協力を得た。 ③進路を見据え、1年次から計画的に資格を取得できるようにする。 【学校説明】段階的に上位級が取得できるよう、カリキュラムを編成している。	A	A  ・進路実現のため十分な指導が行われている。  ・「大学見学」「職場体験学習」は生徒が早期に進路先を早期に理解できる行事であり、よい。
4 安全管理・指導	学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①生徒の交通安全に万全を期すため、交通安全教室や交通安全指導(登校指導)などで周りを常に意識した交通ルール・マナー遵守の徹底を図る。 【学校説明】事故件数は減少したが、ゼロにはならない。駐輪場で自転車に対するいたづらが発生した。 ②「防災計画」を策定し、防災避難訓練を計画的に実施する。また生徒・職員の防災意識の高揚に努める。災害情報などを、携帯メールで配信する。 【学校説明】大きく改善した形で防災訓練を実施できた。同時に被災地ボランティア参加者の報告も行った。	A	A  ・事故件数の減少は指導によるものであろう。引き続きゼロをめざしてほしい。  ・最近、自転車事故で高額な賠償を命じる判決があった。加害者にならないための指導を。  ・休日等における避難所運営について地元自治会防災会との会議を重ねている。
5 保健管理・指導	健康教育の充実 【市共通項目6】	①自ら正しい健康管理ができ規則正しい生活習慣を身につけさせるとともに、生徒の事故防止に努め、定期的に害虫駆除など実施し、環境衛生にも配慮する。 【学校説明】出席率は常に95%以上、朝食摂取率も95%以上とほとんどの生徒が規則正しい生活習慣を身に付けている。 ②生徒の緊急時に備えるため、教員に救急法を計画実施する。 【学校説明】マラソン大会前に実施した。生徒の参加により好評であった。講習のレベルアップも図りたい。 ③健康診断の結果、要治療生徒には必ず受診するように指導する。 【学校説明】治癒報告書の提出状況が検診の種類により大きく異なっている。	A	A  ・社会全体に健康管理の必要性が浸透してきている。生徒たちにも正しい生活習慣が身に付いており、朝食をしっかり摂ることが遅刻の少なさにもつながっていると思う。  ・生徒の進路としても健康・保健の分野の需要は高まるので、その意味でも一層充実した健康教育を実施してほしい。

6 特別支援教育	学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①教育相談に関わる研修を計画的に行う。 【学校説明】人間関係作りプログラム・シグマテスト解説の研修を計画通り実施した。 ②特別支援の必要な生徒の把握に努めるとともに、必要に応じた支援を行う。 【学校説明】入学当初に学校生活に関する保護者の相談窓口を設けた。また、中学校との連携を強化した。 ③個に応じた特別支援の方法の研究、個別の支援計画の作成を行う。 【学校説明】特別支援コーディネーターを中心に研修に取り組む一方、必要な生徒の指導計画を作成した。	A	A	・人間関係作りプログラム、相談窓口の設置、コーディネーターの配置等の取り組みが成果をあげることに期待する。
7 組織運営	組織・運営の改善 【市共通項目8】	①直面する教育課題に対応しうる校内体制を整備する。 【学校説明】総合的な学習の時間のあり方や、新指導要領や新テストに対応した教育課程編成について検討委員会を設けて議論を深めることができた。一方でインターネット上のいじめ・著作権侵害等の問題や不登校生徒の増加等、解決が難しい新たな課題も増える傾向にある。ネットパトロールを導入して対策を進めている。 ②情報管理体制を構築し、ネットワークの活用を促進する。 【学校説明】セキュリティに関する職員の意識が高まった。一方で情報機器の老朽化による不具合が多発した。	B	B	・インターネット上のいじめ、不登校生徒の増加等には早期の対応が不可欠だ。早期発見に留意してほしい。 ・問題点について議論している点、ネット上の問題に対応している点は評価できる。セキュリティ意識の高まりも評価できる。 ・情報機器の老朽化については、具体例を知りたい。 ・校内で解決が難しい課題についてはPTA組織や専門家に相談し、適切に対処する必要がある。
8 研修	研修体制の充実 【市共通項目9】	①校内研修テーマに沿った研修会を前期・後期年2回定期的を実施すると共に、各種研修会・研究会・講演会などの情報提供を積極的に行なうように努める。 【学校説明】アクティブラーニングへの理解を深める研修を実施した。また、他校研修会に積極的に参加した。 ②授業公開週間を前期・後期年2回、3週間ずつ実施し、教員の教科指導力向上と生徒の実態把握に努める。 【学校説明】計画通り実施した。後期はAL公開授業を重ねることで職員の関心が高まった。	A	A	・1つの方向に向けて研修が行われていることが伺える。生徒の広義の学力に反映させてほしい。 ・年2回の研修会、前・後期の公開授業等積極的に進めている点は評価できる。 ・実社会で活躍しているOB・OGの活用なども考えてみてはどうか。
9 保護者・地域の住民等との連携	信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①本校の教育目標・方針や教育活動を積極的に紹介し、定期的にホームページの情報を更新する。 【学校説明】HPを適宜更新した。積極的に動画を添付し、生徒が参加して編集する体制も構築した。 ②学校行事を保護者や地域住民にも案内し、本校の教育活動に理解と協力を求めるとともに、本校の持つ教育機能を広く地域社会に還元する。地域防災や、ボランティア活動への積極的な参加を推進する。 【学校説明】周辺地区と協力して、地域防災における学校の役割について話し合った。また、部活動単位でのボランティア活動や、生徒有志による避難所運営ゲーム研修等を行った。 ③PTA総会・地区PTAを通じて保護者に学校の教育方針・教育内容や学校の現況を伝え、理解・協力を求めると同時に、保護者からも広く意見を聴取する。また、PTA広報誌では保護者だけでなく同窓会員にも積極的に情報を発信する。 【学校説明】全国PTA静岡大会を清水地区で開催し、PTA活動の意義を広めることができた。 ④中学生やその保護者に授業や教育環境を公開する。 【学校説明】1日体験入学やオープンスクールには多くの参加者が集まった。魅力のある学校案内を作成することもできた。	A	A	・保護者や地域住民等との連携がよく工夫されている。保護者の理解が深まり、地域と学校との距離が近くなった。防災関連では地元自治会との防災連絡会を3か月に1回定例で開催することとなった。 ・ホームページの評判もよい。 ・少子化で保護者の学校への関心は非常に強くなっているので、情報公開はより一層きめ細かく行ってほしい。 ・学校から離れている地域に住む方々にも十分に伝える方策も考えてほしい。
10 施設設備	教育施設設備の充実と安全管理	施設・設備、用具・器具は定期的に安全点検を実施する。 【学校説明】校内の安全点検は日常的に実施し、保健課・用務員・事務室が危険箇所を把握して修繕した。	B	B	・近隣からの指摘に早急に対応できたことはよかった。 ・野球場や弓道場等、住宅に隣接する施設については重大事故につながることも考えられる。定期的な点検、日常の確認を徹底してほしい。 ・安全に完璧はないので常に対策を進めてほしい。

学校から経営のまとめ（成果と課題）

今年度は校長から新たに「清水桜が丘高等学校グランドデザイン」が示され、学校全体が中長期的な視点を持ちながら年間の学校教育活動に取り組んだ。各課・学年が「グランドデザイン」に沿った具体的目標を掲げ、日々の教育活動に取り組んだ結果、教育目標をほぼ達成することができた。商業科の100%の就職率や推薦入試を中心とした堅実な進学実績はもちろん、普通科からの一般入試でも高い成果が出始めている。

アクティブラーニング研究の推進においては、「研究チーム」の公開授業を中心に、教員それぞれの授業の中に様々な工夫が見られるようになり、授業改善が進んでいると言える。iPadの導入やClassiの活用などICTを活用した新たな試みも行われたが、一方で現有機器の老朽化による不具合が多発し、ITC活用の妨げとなっている。

学校生活は総じて落ち着いていると言えるが、生徒が多様化する中で「自己実現に向かって挑戦し、未来を切り拓くたくましい若者」として育ていけるような指導を粘り強く行っていかなければならない。また、学習指導要領の改訂も見通し、より魅力的でより成果の上がる教育活動が展開できるよう学校全体で取り組んでいく必要がある。